

「復旧・復興に向けたアンケート調査」 集計結果概要

調査実施概要

対象者： 町民全世帯 (2,120 世帯)
 実施期間：配布 7月27日、回収期限 8月9日
 実施方法：郵送配布、郵送回収
 回収状況：849票 (回収率 40.0%)

回答者の属性

性別 男性 77.2% 女性 22.8%

年齢 10代 0.0%

20代 3.2%

30代 7.0%

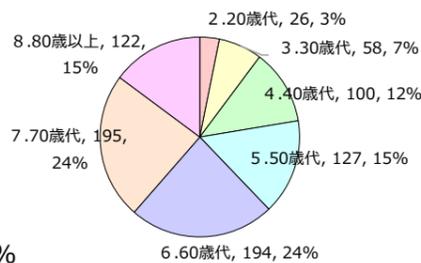
40代 12.1%

50代 15.5%

60代 23.7%

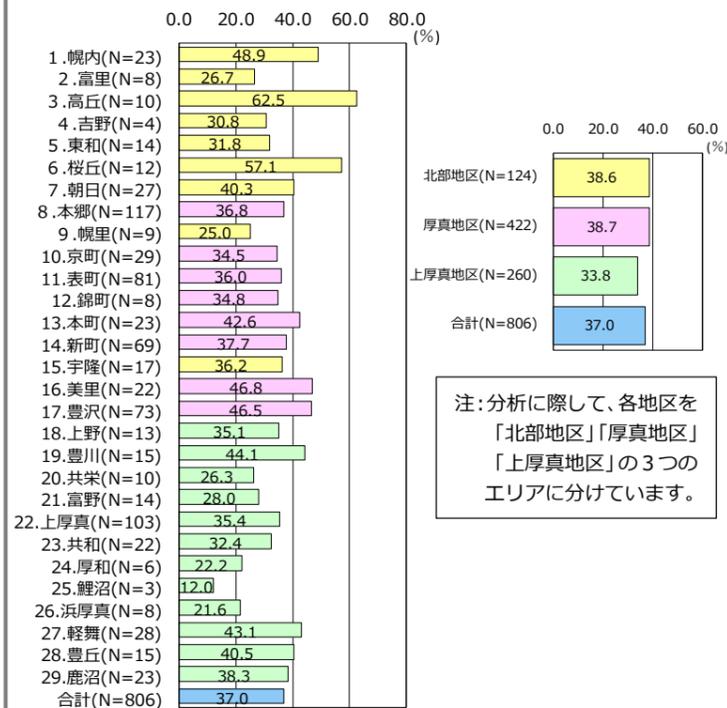
70代 23.8%

80歳以上 14.9%



地区別の回収率

(母数の世帯数は令和元年9月6日現在)
 (回収票のうち地区不明を除く)



注：分析に際して、各地区を「北部地区」「厚真地区」「上厚真地区」の3つのエリアに分けています。

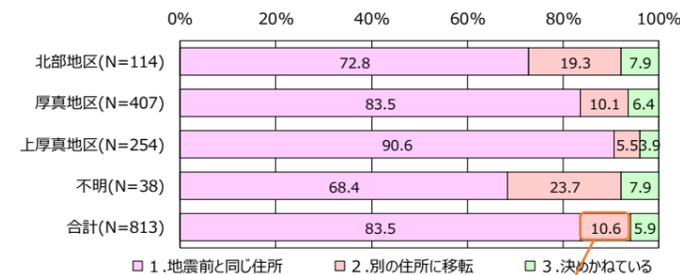
1. 住まいの再建について

Q. 地区別の住宅の被害状況



・「揺れによる住宅被害」が最も多く、次に多い被害として、「地割れ・地盤被害」、「井戸水等インフラ被害」があげられます。「井戸水等インフラ被害」が北部・南部に多くみられ、住宅の再建に対する支援だけでなく、宅地やインフラの復旧に対する支援も必要です。
 ・「その他」として、家具・家財、納屋等の被害が多く記載されています。

Q. 今後の住まいの場所



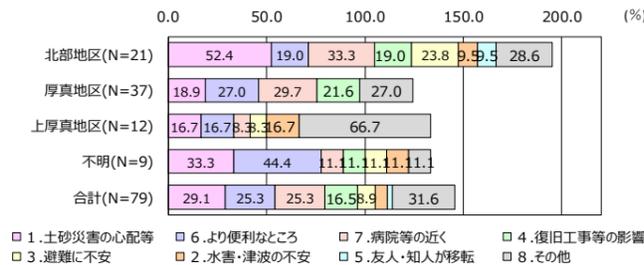
移転する場合の住まいの場所



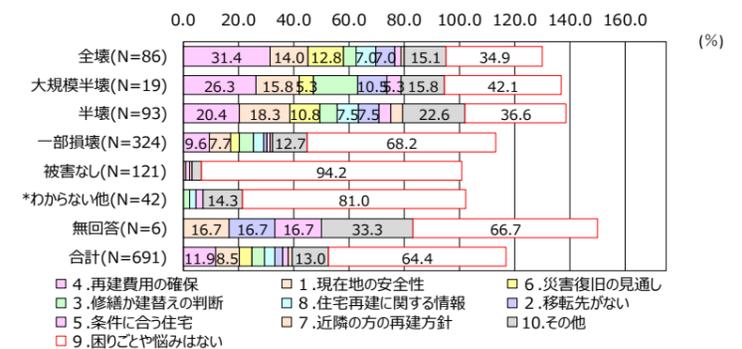
・今後の住まいの場所については、「被災前と同じ場所」がどのエリアでも最も多くなっています。また、「別の住所に移転する」と回答した方のうち、移転先の住まいの場所を「同じ地区内」「厚真町内」と回答した方が併せて77.8%となっており、厚真町に住み続けたいと希望する方が多いことが分かります。
 ・今後の住まい再建の方向性を決めかねている方が全体の5.8%にのぼることから、引き続き住宅再建に対する支援の継続が必要です。

移転の理由

・移転の理由としては、「土砂災害・地盤の安全性への不安」が最も多く、次いで「より便利なおとこがよい」「将来を考え病院等の近くが良い」があげられました。北部では「避難に不安がある」、南部では「水害・津波の不安」という回答も多く見られ、地域ごとのリスクに応じた対策も必要となっています。

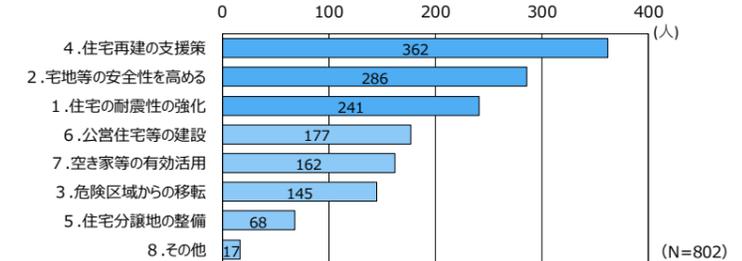


Q. 住まいについてのお悩みや困りごと



・「再建費用の確保」「現在地の安全性」が多くあげられています。
 ・「その他」には、「修繕のための費用確保」「どこまで修繕するか判断が出来ない」「賃貸のため修繕できない」「次に大きな地震が来ると考えると不安」などの回答が複数みられました。住宅修繕についても、現行制度の周知や、支援の充実が求められています。

Q. 住宅の再生で重要だと思う点

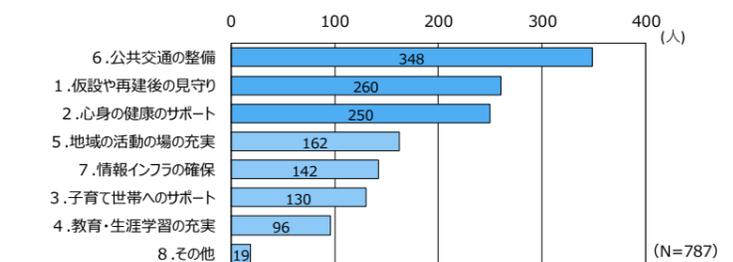


【その他】

「市街化調整区域の解除」「個々の事情を細かく聞き取る」など

・「住宅再建の支援策」が最も多く、次いで「宅地等の安全性を高める取り組み」「住宅の耐震性の強化」についても回答が多くあげられました。引き続き、これらの取り組みを進めていくことが必要です。

Q. 暮らしの再生で重要だと思う点



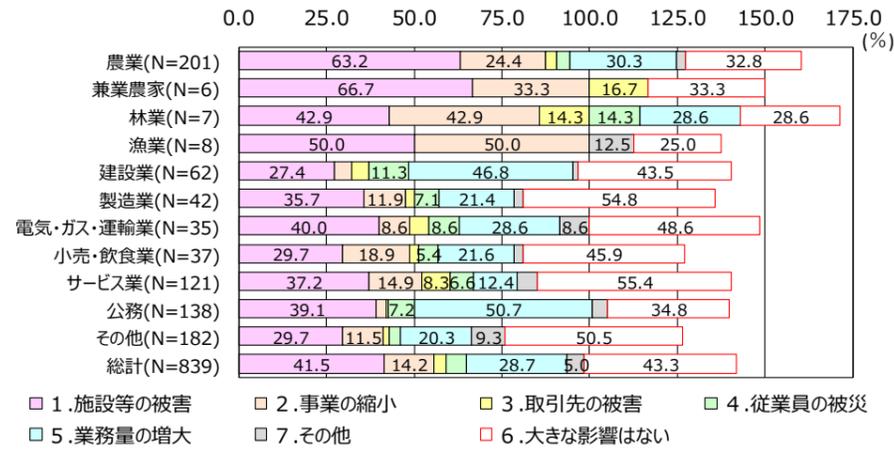
【その他】

「町民交流のイベントの充実」「地域の神社などの再建」など

・「公共交通の整備」「見守り・サポート」「心身の健康のサポート」を重要とする回答が多くあげられました。住宅再建の取り組みと併せて、引き続きこれらの取り組みを行っていくとともに、施策の充実にに向けた検討が必要です。

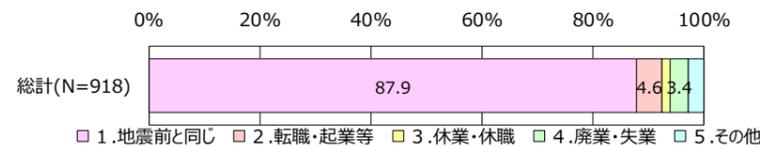
2. しごとについて

Q. しごとの被害・影響について



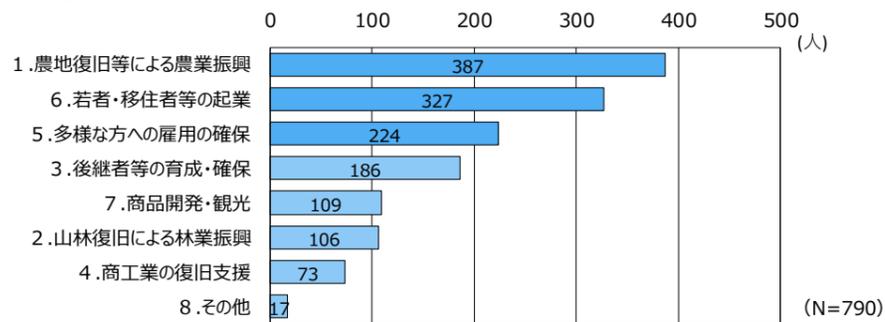
- 被害や影響があったとする方のうち、全体では「施設や設備等の被害」が最も多く、次いで「業務量の増大」「事業の縮小」といった影響があげられました。
- 業種別に見ると、林業・漁業で「事業の縮小」と回答する割合が多く、建設業、公務で「業務量の増大」と回答する割合が多くなっています。

Q. 現在のしごとの状況について



- 「地震前と同じ」が87.9%と最も多いものの、「転職・起業等」「休業・休職」「廃業・失業」と回答する方も見られました。

Q. 「しごとの再生」や「まちの活力向上」のために重要だと思う点

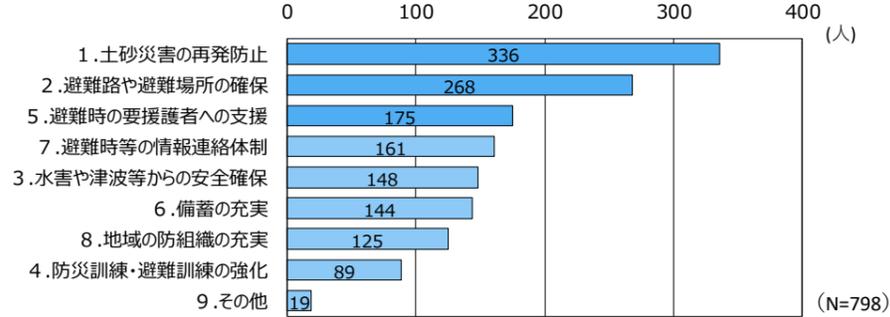


【その他】
「厚真ダム等の活用」「支援員、地域おこし協力隊の取組」など

- 「農地の復旧・活用による農業振興」が最も多く、次に「今後も若者や移住者が町内で就業・起業するための環境整備」、「震災で仕事を継続できなくなった人等を含む多様な方の雇用の確保への支援」が多く回答されました。

3. 安全・安心なまちづくりについて

Q. 「安全・安心なまちづくり」のために重要だと思う点

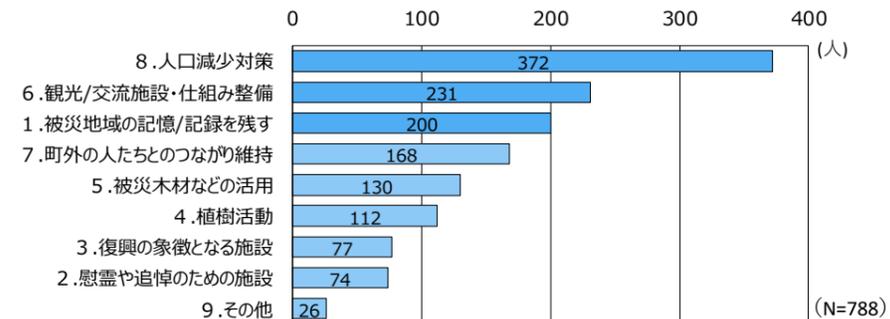


【その他】
「防災教育の充実」「自分の身を守るための備えをするよう推進」など

- 「斜面の復旧や森林の再生による土砂災害の再発防止」が最も多く、次いで「安全な避難路や避難場所の確保・再整備」「避難時の要援護者への支援体制の整備」があげられました。

4. 厚真町の復興や将来像について

Q. 厚真町の復興に向けた取り組みとして、重要だと思う点



【その他】
「町民それぞれが復興に寄与していると実感できる活動」
「震災を機に、町の将来像を考え直すこと」
「以前の生活を取り戻す」「日常生活が出来る状態にする」など

- 「震災に伴う人口減少に対する取り組み」が最も多く、次に「厚真町を訪れる人が増え、観光や交流ができる施設や仕組みの整備」「被災した地域の記憶や被災の記録を残すための活動」「震災を機にうまれた町外の方たちとのつながりを維持していくための活動」が多くあげられました。

Q. 厚真町の復旧・復興に向けて、「こんな厚真にしたい」「こんな厚真になったら良い」という思い (自由記述)

- 「震災のまち、土砂崩れがあったまち、ではなく、これまで以上に素敵なまちだと知ってもらいたい」(30代・女性)
- 「やっぱり住んでいて良かった」と思える厚真(40代・男性)
- 「自信と誇りの持てる厚真町にしたい」(50代・男性)
- 「震災の経験を活用し安心安全で災害に強い町づくりをしてほしい」(30代・男性)
- 「防災、減災に向けたアイデア等を発信できる町」(50代・男性)
- 「震災前の厚真町に少しでも近づけたら何よりも嬉しいし安心」(70代・男性)
- 「震災前から望んでいた厚真の姿を追い求める」(60代・男性)
- 「大いなる田舎厚真町を1日でも早く取り戻したい。緑があって空気が美味しくて海があって山がある。」(50代・女性)
- 「新しい物事だけでなく、既存の活動・取り組みもしっかり再評価して活かしてほしい」(30代・女性)
- 「被害が大きかった地域の方々と、町内で助け合うなどして支えていける活動ができれば、これからのまちづくりにも活かせると思う」(50代・女性)
- 「移住者と以前から住んでいる方達が、年齢をこえて親しく地域交流ができる」(70代・女性)
- 「温度差が出来るだけでなく、町民皆同じ思いで復興していけると良い」(40代・男性)
- 「震災を機につながった関係人口と、今後もつながりを深めていく」(20代・男性)

Q. 厚真町の復旧・復興についてのご意見・ご要望 (自由記述)

- 「町民一人一人が復興について、自分は何が出来るか考える時だと思う」(80代・男性)
- 「年寄りが輝けば町も輝くといわれる。元気な年寄りを利用する施策を考えてほしい。」(80代・男性)
- 「役場の皆さんが頑張っているが、無理はせず、早めに帰る取り組みもしてほしい」(20代・男性)
- 「今回のことで職員の方々がとてもレベルアップ・スキルアップしていると感じる。若い方の意見を取り入れながら新しい厚真を創れると良い」(40代・男性)
- 「早く次の住む所を決めたい。個別の話し合いの時間を作ってほしい。」(70代・男性)
- 「復興と並行して、自治会や農事組合の再編も検討すべきでは。」(50代・男性)
- 「仮設住宅に入居している被災者の住居の支援をしっかりとすべき。あと1年で仮設住宅を出なければいけないという不安は相当なものだと思う」(50代・男性)
- 「まずは現在住んでいる町民が“生きてて良かった”と思える生活にしてほしい。みんなが落ち着いてから慰霊のための施設や記録を残すことも大事だと思う。」(60代・女性)
- 「自分の意向にそわない判定がその後の義援金などにずっとひびくのも仕方ないかもしれないけれど、不満を持った人は多いと思う。」(60代・女性)
- 「以前よりも車が通るとすごく揺れると感じる。地震により建物に影響が出ているのか、地盤に影響が出ているのか分からない。そんなことを調べたりできるのならありがたい」(40代・男性)